

## ホウレンソウ萎凋病に対するカラシナすき込み効果

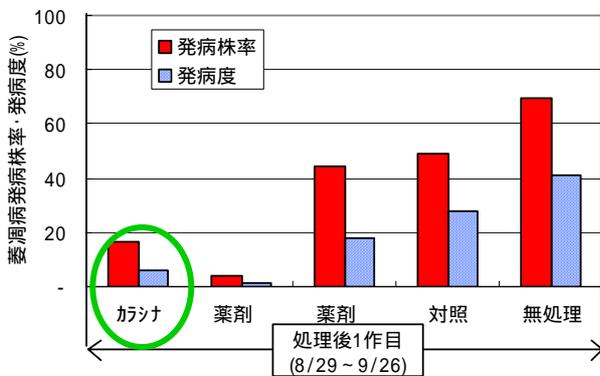
### 【1 成果概要】

カラシナすき込み処理によって、萎凋病の発病株率・発病程度が減少します(図1)。低温期(4月)の処理でも萎凋病の発病抑制が見られますが、処理後1作目の作付け期間しか効果が持続しないため、多発する時期の前に処理することが望ましいです(図1(2))。

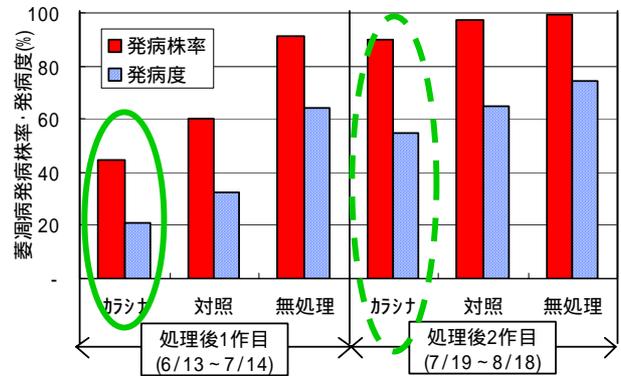
カラシナすき込み処理は、以下のように行います。

0.5t/a 量のカラシナ茎葉を地下 20 cm 深まですき込みます。

30mm 程度のかん水を行った後、透明ビニールで被覆をして、1ヶ月間ハウスを閉切ります。



(1)H18年7月処理(7/26~8/25)



(2)H18年4月処理(4/25~5/24)

区名	処理の概要
カラシナ	カラシナ茎葉0.5t/a + ビニール被覆(30日間)
薬剤	ダゾメット粉粒剤 + ビニール被覆(10日間)
薬剤	カーバムナトリウム塩液剤 + ビニール被覆(10日間)
対照	ビニール被覆のみ(30日間)
無処理	-

注1) 図(1)・(2)の全てで処理の概要は同じです。

注2) 発病度は、地上部の萎凋程度を軽度・重度・枯死の3段階に分け、(軽度の株数×1+重度の株数×2+枯死株数×3)×100/3で算出したものです。

図1 カラシナすき込み処理と他の土壌消毒との効果の比較

### 【2 効果】

雨よけほうれんそう栽培における減農薬栽培の一手法としての選択肢になります。

### 【3 留意事項】

- 萎凋病菌に汚染された土壌との混濁を避けるため、カラシナすき込み時に施肥も行い、ビニール被覆処理後1作目は、不耕起でほうれんそうを作付けします。
- すき込みに用いたカラシナは、ハウス内および露地で栽培したものを使用します。なお、ハウス内では無施肥(ほうれんそうの残肥)で、また、露地では1kgN/a量の施肥を行い、どちらも30g/a量の種子をばら播きして栽培します。